

南海地震津波碑の4K映像について

国登録記念物「南海地震徳島県地震津波碑」について

教育文化課

1. 答申の概要

文化審議会（会長 馬淵明子）は、平成29年6月16日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て文部科学大臣に答申され、平成29年10月13日（金）に、官報告示された。

○登録記念物の新登録

「南海地震徳島県地震津波碑」

徳島市1基（おきのすえびす じんじやひやく どいし 沖洲蛭子神社 百度石）
小松島市1基（あかいしとよらじんじやせきひ 赤石豊浦神社石碑）
阿南市3基（つばきはちまんじんじやじょう やとう 椿八幡神社 常夜燈，他）
那賀町1基（な か みょうほう じこうしんとう 那賀 妙法寺庚申塔）
美波町2基（し わ き しんさい ひ 志和岐震災碑，他）
牟岐町4基（て ば じ ま か ん え い じ せ き ひ 出羽島観栄寺石碑（旧・新碑），他）
海陽町7基（あさかわみさきじんじやせきひ 浅川御崎神社石碑（旧碑），他）

以上3市4町 19基

2. 南海地震徳島県地震津波碑について

- ①平成28年度の調査の結果、39基の碑の存在を確認し集成した。碑の分布は県南部の海部郡から北は板野郡松茂町に及んでいる。過去に南海地震の津波によって大きな被害を受けてきた海陽町では16基所在し、そのうち浅川地区に13基が集中している。牟岐町で6基、美波町と阿南市でそれぞれ5基、小松島市4基と県南部に多い。この他、徳島市、松茂町、那賀町にそれぞれ1基所在する。
- ②このうち、すでに文化財指定されているものや、建立後50年に満たないものを除外した19基の地震津波碑を、全国で初めて国の登録記念物に登録した。海陽町7基、牟岐町4基、美波町2基、阿南市3基、那賀町1基、小松島市1基、徳島市1基である。
- ③対象となる地震は、1707年の宝永南海地震、1854年の安政南海地震、1946年の昭和南海地震である。その内訳は、宝永南海地震に関連するもの1基、安政南海地震に関連するもの13基、昭和南海地震に関連するもの5基である。
- ④建立場所としては寺社境内が多く、そこが避難場所となったことや人目につきやすい場所であること、神仏の加護に感謝して建立されたことが考えられる。
- ⑤碑文に書かれた内容としては、南海地震の津波被害を記録したものが多く、供養や教訓が付け加えられている。この他、津波の高さを表したものもある。
- ⑥これらの地震津波碑は、地域における文化遺産として、あるいは防災教育の教材として後世に伝え、活用を図っていくべきものである。



南海地震徳島県地震津波碑分布図



あかいしとようらじんじやせきひ
赤石豊浦神社石碑

(小松島市赤石町)

安政南海地震（1854年）では津波で多くの被害があったが、小松島豊浦では、この神社に集まって難を逃れたとある。

建立年月日：不詳



あさかわかんのんあんじぞうそんだいし
浅川観音庵地藏尊台石

(海部郡海陽町浅川)

観音庵内にある地藏尊の台石に、宝永地震津波（1707年）の記述がある。建立年代が確認できる津波碑としては、県内最古である。

建立年月日：正徳2（1712）年7月



あさかわみさきじんじやせきひ
浅川御崎神社石碑（旧碑）

(海部郡海陽町浅川)

御崎神社に隣接する千光寺に、安政南海地震（1854年）の状況と教訓が書かれた扁額がある。その内容を石碑にしたもの。現在、風化により碑文が見えづらくなっているため、新碑が建てられた。

建立年月日：明治34（1901）年11月



あさかわてんじんじやせきひ
浅川天神社石碑（旧碑）

（海部郡海陽町浅川）

安政南海地震（1854年）の当日の状況が詳しく書かれている。碑文の状況は良好だが、境内に新碑が建てられている。

建立年月日：慶応3（1867）年4月



おきのすえびすじんじやひやくどいし
沖洲蛭子神社百度石

（徳島市南沖洲）

安政南海地震（1854年）について、「火の元に心をつける事肝要」などの教訓が3面に書かれている。現在、2面は完全に剥がれ、一面のみに碑文が残る。

建立年月日：文久元（1861）年9月

〔平成15（2003）年3月3日移転〕



ひがしゆきうらしゆうていひ
東由岐浦修堤碑

（海部郡美波町東由岐）

大正元（1912）年の暴風雨で起きた高波で、壊れた堤防を修復した記念に建てたもの。碑文の前半には、安政南海地震津波の状況について記される。

建立年月日：大正2（1913）年9月